

6月は梅雨のため雨が多くジメジメする日が増え、寒暖の差が激しい月でもあります。子どもたちにとって、湿度も高く、食欲低下や発汗が多くなるなど不快を感じる季節です。また、感染症が流行しだす時期です。どのような感染症があるかお知らせします。

## 1、咽頭結膜熱 別名 プール熱ともいわれております。

主な症状は発熱・喉の痛み・眼の充血（結膜炎）です。

感染してから5～7日身体の中で潜伏し発症後3～5日で治癒します。

治癒後の登園には医師の登園許可書が必要になります。

## 2、溶連菌感染症

主な症状は突然の発熱（高熱になることが多いです）・嘔吐・喉の痛み等です。

潜伏期間は2～5日とされており10日間の内服で治癒すると言われています。

治癒後の登園には保護者様からの登園届けが必要です。

## 3、流行性耳下腺炎 別名 おたふく風邪ともいわれております。

主な症状は発熱と耳の下にある耳下腺の腫れ・痛み及び飲み込むときに痛みを訴える子もいます。潜伏期間は長く2～3週間で治癒までにも1～2週間ほどかかります。

ワクチンを接種することで罹患率が大幅に減少しますのでおすすめです。

治癒後の登園には医師の登園許可書が必要になります。

## 4、手足口病

主な症状は名前の通り手や足・口の中に水疱ができます。また、下痢を伴うこともあります。通常、発熱はありますが高熱にはならないため元気に見えますが、水疱部分に痒みがありますので水泡をつぶさないように観察が必要です。特に口腔内の水泡が潰れてしまうと潰瘍になることもあり食欲低下にもつながります。

治癒後の登園には登園届けが必要です

※感染症の予防には手洗い・うがい等の予防とワクチン等の予防接種が必要です。

湿疹等の症状が出るものも多くありますので、お子様の全身状態等の観察

も併せて行っていただくと早期発見・早期治癒につながります。